高齢者の豊かな生活のために　　２０２１年４月１日発行

手 賀 沼 通 信（第２７７号）

Ｅメール：nittay@jcom.home.ne.jp　http://ynitta.cocolog-nifty.com/blog/　新田良昭
http://jfn.josuikai.net/semi/koyukai　http://tegatu2.web.fc2.com

２月号に続く新型コロナウィルスについての手賀沼通信ブログ抜粋です。

コロナが収まるまでブログを書き続けます。早くコロナ特集を出さなくてよくなるのを願っています。

手賀沼通信ブログ抜粋－コロナ特集その３

待ちに待ったプロ野球が開幕した（ＮＯ．１３５６）（令和２年６月２０日）

令和２年６月１９日、コロナウィルスで延期されていたプロ野球が開幕しました。待ちに待ったという感じです。

しばらくの間は無観客で行われます。コロナの状況を見て観客を入れることになるようです。試合数は昨年の各チーム１４３試合から１２０試合に減りました。コロナの感染を防ぐため、なるべく移動を少なくするよう工夫されました。６連戦も昨年より増えるようです。

セ・パの交流戦は中止です。オールスターゲームもありません。日本シリーズに参加するチームを選ぶクライマックスシリーズはセリーグは中止、パリーグは１位と２位のチームで３試合先取で行われます。日本シリーズは今まで通りの形で行われるようです。

昨日の開幕戦はセリーグは３試合とも関東地区で行われました。雨の中の試合でしたが、屋根のない神宮球場と横浜スタジアムの試合も強行されました。おそらく観客を入れた試合なら中止になっていたと思います。日程に余裕がないのだと思います。

パリーグは関東と大阪と福岡で、いずれもドーム球場でした。

観客席に人の代わりにいろいろなものを並べて試合を盛り上げている球場もありました。いずれもプロ野球始まって以来の異常事態ですが、それなりに面白い試合が展開されました。そのうち観客が入れば、ファンも選手も一段と盛り上がっていくことでしょう。やっと楽しみが一つ戻ってきました。

やっと我孫子市の図書館が開館した（ＮＯ．１３５９）（令和２年７月３日）

令和２年７月２日我孫子市民図書館に予約していた本が利用可能となったので、アビスタ内の図書館に受け取りに行ってきました。

７月１日に開館することは知っていたのですが、６月２３日から開館していたようです。ただ図書館内でゆっくり本を読める状態ではなく、本を借りるか返すかという利用方法だけでした。普段と違って、入館するには入館者カードに記入し、マスクをつけ、手指の消毒をし、３０分程度で出なければなりません。

それでも本を手に取って選べるのはやっと図書館が返ってきたという感じになりました。

ほかの市では緊急時短宣言が撤廃されて真っ先に利用できるようになったのは図書館のような文化的で比較的三密にならないような施設でした。ところが我孫子市では予約図書の貸し出しと返済はできましたが、なぜか図書館は６月末まで閉館になっていました。それが６月２３日に開いたの

は他の市との違いが大きいのを市長が知ったからかもしれません。

なるべく早く、感染対策を講じたうえで、以前のように図書館が利用できるようにしてほしいものです。

コロナのＰＣＲ検査を受けた（ＮＯ．１３６６）（令和２年７月２１日）

令和２年７月２０日、慈恵大病院でコロナのＰＣＲ検査を受けました。

それらしき症状が出たためではなく、２１日から喉頭白板症の手術を受けるため、入院前の検査として受けたのです。救急患者はどうなのかよく知りませんが、おそらく予定通りの入院をする人は事前にＰＣＲ検査を受けることになっているのでしょう。

ＰＣＲ検査は病院の中でもはるか離れた場所で行われました。普段は何に使われているかわからないような場所でした。２人ほどの人が待っていました。予定より２０分ほど待たされましたが、検査は鼻の中に棒を差し込んで体液を取るだけであっという間に終わりました。

「陽性なら電話します、陰性なら何も連絡しません。連絡がなければ予定通り２１日に入院してください」と言われました。今年になってからは東京までは行っていません。電車に乗ったのは松戸の新東京病院に通った２度だけです。普段は朝６時ころ人通りのない道を散歩するだけ、買い物も買いたいものをメモしておいて、５分以内で終わります。それも週１回くらいです。陽性になるはずはないと思っていました。

ところが慈恵大から電話がありました。一瞬驚きましたが、それは入院する部屋のことで、検査とは無関係の電話でした。陽性なら妻にも感染するでしょうし、大変なことになります。

トランプ大統領がコロナ陽性、アメリカの感染はどうなる（ＮＯ．１３８５）（令和２年１０月３日）

２０２０年１０月２日アメリカのトランプ大統領が新型コロナウィルス陽性と判明しました。メラニア夫人も陽性でした。

読売新聞には「来月大統領選　影響は必至」「終盤　再選戦略狂う」「米政権中枢　甘い認識」「マスク・社会的距離　ルール無視」「中国紙　軽視の代償」などの見出しが紙面を満たしていました。

たしかにテレビや新聞でトランプ大統領を見る限りいつ感染してもおかしくない感じでした。テレビでマスクをしてヘリコプターに乗り込むところを見ましたが、ちょっと遅すぎたようです。

私が一番関心を寄せているのは、これでアメリカのコロナの感染が収まるように向かってほしいということです。トランプ大統領が自ら感染したことにより、コロナの怖さを自覚して感染対策にリーダーシップを発揮することが肝要です。

過去の各国の首脳が感染した後、その国がどうなったかを見ると感染は拡大しています。

イギリスではジョンソン首相が３月に感染しました。４月１日にはイギリスの感染者は２万２千人ほどでしたが、１０月３日には約４６万３千人になっています。イギリスは当初は他のヨーロッパ諸国より感染が少なかったのですが、あっという間に他のヨーロッパ諸国を追い越して感染者や死亡者が増えました。死亡者数と死亡率はヨーロッパ最高になっています。

４月にはロシアのミシュスチン首相が感染しました。ロシアでは５月１２日に約２２万だった感染者が１０月３日には約１１９万人に達しました。感染者数はブラジルに次いで世界第４位です。

７月にはブラジルのボルソナロ大統領が感染しました。トランプ大統領と同じくコロナはただの風邪と軽視していました。８月１日には約２６１万人だった感染者は１０月３日には約４８５万人に増えています。死者は９万１千人から約１４万５千人に増えました。

これらの例から見ると、３人とも感染を抑える有効な手が打てなかったと言えます。国のリーダーの感染はむしろ悪い方向に向かっています。

はたしてトランプ大統領の感染が吉と出るか凶と出るか、今までの悪例をひっくり返してほしいものです。

コロナの日本国内の感染者が中国の感染者の数を超えた（ＮＯ．１３８６）（令和２年１０月８日）

２０２０年１０月７日、日本国内のコロナの感染者の数（クルーズ船や空港での感染者の数を除く）が中国の感染者の数を上回りました。

ただ、中国の数字はアメリカのジョンズ・ホプキンス大の集計によりますが、５月１９日以後死亡者がゼロとなっており、信頼性を疑う人もおります。

同大学の数字からまとめた、日本、中国、韓国、台湾の１０月７日現在の感染者と死亡者の比較です。

	感染者	死亡者	人口（百万）
・日本	８５,９６５	１,６１５	１億２７
・中国	８５,４８９	４,６３４	１４億３３
・韓国	２４,３５３	４２５	５１
・台湾	５２１	７	２４

この数字を人口で平準化してみると、日本が他の３国より多くの感染者と死亡者を出しているのがわかります。

	感染者	死亡者
・対中国	１１.３倍	４倍
・対韓国	１.４倍	１.５倍
・対台湾	３１.２倍	４２.３倍

東アジア４国では日本が一番コロナ対策が遅れています。今後どうするか、経済への影響と天秤にかけながら考えていく必要があると思います。

ただ、世界を見渡すと東アジアはコロナをよく抑え込んでると言えるかもしれません。

コロナにかかりながらわずか３日で退院したトランプ大統領のアメリカは１０月７日現在、感染者は７５０万人を超え死者は２１万人を超えました。ヨーロッパのフランス、イギリス、スペイン、イタリアなどでも再び感染が広がり、現在のところ１日の感染者が数千人から１万人台になっています。

１０月５日、WHOは世界の感染者は３５００万人を超えたと伝えています。推計では７７億人の世界の人口の１０％が感染したとも述べています。どこまで続くのでしょうか。

日本国内のコロナ感染者が１０万人を超える。アメリカ、ヨーロッパは危機的拡大（ＮＯ．１３９４）（令和２年１１月１日）

２０２０年１０月３１日、コロナの日本国内（クルーズ船、空港検疫などを除く）の感染者の累計が１０万人を超えました。

感染者はじりじりと増え続けています。３１日の全国の感染者は８６８人、８月２７日以来の高い数字を示しました。１０月３１日までの３０日間の感染者は１万６３７２人で、それ以前の３０日間の数字１万４４２７人を超えています。

今後、ＧＯ ＴＯ トラベルの普及やイベントなどの制限人数がゆるむことから、感染者数はさらに増加することが考えられます。官民一体でコロナ感染の抑止を図ることが何よりの急務なのではないでしょうか。

世界に目を向けると事態はさらに深刻です。世界の数字を日本時間１０月３１日午後１０時現在で見ていきましょう。

アメリカの感染者は大統領選挙が近づくにつれて増え続け、３１日は過去最大の１日あたり１０万９１６人となり、累計は９００万人を超えて９０４万７７９２人になりました。トランプが選挙運動に専念し、コロナ抑制に何も手を打たなかったことが数字に出ています。

ヨーロッパも危機的拡大です。フランスは累計約１３３万人、３１日の増加約４万９千人、スペイン約１１９万と約２万５千、イギリス約９９万と約２万４千、イタリア約６５万と約３万となっています。そのため国によって外出禁止とか外出制限が、時間や場所を決めて行われ始めています。この４国がワースト４ですが、他の国でも感染と制限が及んでいます。

今後どうなるか誰にも予測できないのではないでしょうか。

コロナは第３波の真っただ中だ（ＮＯ．１３９９）（令和２年１１月１１日）

２０２０年１１月１０日ついにコロナのアメリカの感染者が１千万人を超えました。この６日間の１日あたりの感染者は連日１０万人を超えています。死者は２３万人を超えています。

日本では１１日現在感染者は１０万９１７０人、ここ６日間で６４５４人なので明日には１１万人を超えるでしょう。

ヨーロッパも急増しています。フランスは１８０万人を超えて、ロシアを抜き世界第４位となり

ました。人口が６千６百万人なので驚くべき感染数です。スペイン１４０万人、イギリス１２０万人、イタリア９６万人とヨーロッパの感染は一段と広がっています。これらを見るとコロナの第３波が来たことは明らかです。

今までの感染防御策では防げないのではないでしょうか。東京、大阪、北海道、愛知、神奈川、沖縄など独自の対策が必要かもしれません。特にクラスターを防ぐことが第１です。

こんな例がありました。私の妹は最近夫を亡くしました。子供が３人いて１人は東京に住んでいます。その東京の子供が葬儀で帰省して介護施設勤務の弟に会うと、その弟は２週間介護施設に勤務できないという決まりになっていました。仕方なく２人は会うことができませんでした。

これは愛媛県の場合です。愛媛県はコロナを抑え込んでいます。クラスターを防ぐ１つの例かもしれません。

日本政府は新型コロナを本気で抑え込むつもりはあるのか（ＮＯ．１４０６）（平成２年１２月１日）

新型コロナウィルスの日本の新規感染者（クルーズ船、空港検疫などを除く）が令和２年１１月６日に１０００人を超え、１１月２９日には２６７０名と過去最高を記録しました。増加傾向は衰えを見せません。

これに対して日本政府は感染防止対策の強力なリーダーシップを発揮することなく、ひたすら国民の自粛を求めています。経済の活性化を求めて始めた「GO　TO　トラベル」以後感染は増えていますが、国土交通省はやめるつもりはなく、政府や経済再生相や厚生労働省はあいまいな態度を取り続けています。各県知事任せといった無責任な態度です。

「GO　TO　トラベル」によってどれくらい感染が増えるかという予測や、その結果どれくらい感染が増えたかという分析システムもなく、ただマスクと三密回避と換気等というお題目に頼っているだけです。

ホテルや旅館や飲食店や交通機関は懸命に考えられる対策を取っていますが、人の動きが感染拡大の最大原因である以上、動きを助長してはいけないはずです。

１２月１日の読売新聞社説では「新型コロナ対策　感染抑止を最優先に取り組め」と題して次のように書かれていました。要約してみます。

「経済を回復させるためにも、新型コロナウィルスの急速な蔓延を食い止める必要がある。政府の対応には、もどかしさを感じざるを得ない。(中略)

『GO　TO』事業は、外出を促す象徴的な対策だ。政府による運用の見直しが小出しになっているのは、政策の失敗という批判を恐れているためではないか。

感染症対策と経済活動の両立に向け、消費の喚起は重要だが、感染者が急増している局面では、後回しにするのが妥当である。柔軟に施策を変更すべきだ。

政府は今月１５日までを『勝負の３週間』と位置づけ、国民に感染防止策を求めている。感染抑止の瀬戸際であると強調しながら、人の往来を助長していては、国民は戸惑うだろう。

危機感を共有するため、政府には明確な指針に基づいたメッセージを発出してもらいたい。感染が終息に向かわなければ、経済の再生が遅れるだけでなく、来年の東京五輪への不安が高まろう。政府は当面、感染抑止に最優先で取り組まねばならない。(後略)」

政府、国会議員、役人よ、しっかりしてほしい。それがあなたたちの今の最大の務めだ。

☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆　☆

この期間にコロナに関係する下記のブログも書いています。

・東京オリンピック、パラリンピックは中止となるのではないか（６月２７日）
・コロナの感染が広がる中、プロ野球が観客を入れ始めた（７月１１日）
・コロナの日本国内の最近の感染者数がヨーロッパ３位のイタリアの感染者数を追い越した（７月１６日）
・コロナの日本の感染者数の合計は１か月後には中国の合計を上回る（８月１３日）
・コロナで変わったアメリカ大リーグとポストシーズン（９月２９日）
・ＭＬＢのワールドシリーズは観客を入れて始まった（１０月２１日）